

## [094] 史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2244518>

---

出版情報 : 史淵. 94, 1965-03-15. Faculty of Literature, Kyushu University  
バージョン :  
権利関係 :

彙報

史学科講義題目

自 昭和三十九年十月  
至 昭和四〇年三月

明史食貨史

講義

江嶋 助教授

唐代制度史

唐代課丁考

古代家族制度

日野 教授

越智 助教授

西洋史

演習

近代化研究 (G. D. H. Cole, Socialist Thought

I 1789—1850)

Paul Thompson: Liberals, Radicals and

Labour in London 1880—1900

J. Kuczynski: Zur Soziologie des

imperialistischen Deutschland.

卒論指導

Tawtier (R) Les Capétiens et la France

フランス中世慣習法研究 ("Les ét-

ablissements de Saint Louis")

中世より近世への過渡期の諸問題

(J. Haller und H. Dannenbauer, Von den

Staufen zu den Habsburgern)

ドイツ地理研究 (Das Hauptstadt problem

in der Geschichte)

講義

ドイツ社会構成史 (十九世紀)

箭内 教授

〃

〃

新城 教授

〃

〃

田村 助教授

檜垣 講師

箭内 教授

新城 教授

田村 助教授

日野 教授

越智 助教授

国史学

演習

九州近世史の諸問題

近世史

近世史料

中世史料

中世の日記

太良荘の研究

日本書紀

近世史研究

講義

鎖国の形成と国際環境

莊園をめぐる二・三の問題

奈良朝政治史

東洋史

演習

奉天録

世説新語

フランス中世史

講 読

西洋古代中世史研究上の基礎概念

考 古 学

演 習

日本考古学 (A)

〃 (B)

〃 (C)

東洋考古学の諸問題

実 習

講 義

遺跡論(古代の城柵)

中国考古学

臨時講義

日本史学史

石器時代

ギリシャ史

森 助教授

森 助教授

鏡山 教授

〃

〃

岡崎 助教授

鏡山 助教授

岡崎 助教授

鏡山 教授

岡崎 助教授

立教大学教授 大久保利謙

東北大学教授 伊東信雄

東京大学教授 村川堅太郎

## 国史学科の動向

○三十九年度進学生は次の十三名である。十月以降、研究室は学部学生四八名、大学院七名を擁することとなった。

朝火英夫、井上勝利、木原国男、木村隆久、倉光敏一、後藤敏彦、小林一恵、酒井恭子、田坂大蔵、豊田 晃、平田真司、道永洋子、宮原敏昭

○三十九年度の九州史学研究会総会は十一月廿九日、文学部に於て開催され次の発表があつた。テーマ及び発表者は次の通りである。

「鎌倉初期における九州政治情勢——石井論文を中心に——」  
水崎雄文（卒業生）

「鎌倉期九州における御家人及び在地領主研究」

——北部九州—— 恵 良 宏  
——南部九州—— 山 口 隼 正

○卒業生及び研究室関係者の出版、史料校訂では次のものがあつた。

山口宗之「全集未収橋本左内関係史料研究」

三木俊秋、桑波田興「富士谷文書①」（九州史料叢書⑭）

中村實「長崎平戸町人別帳」（九州史料叢書⑯）

恵良宏「筑後国水田庄・広川庄史料」（九州庄園史料叢書10）

のうち水田庄史料の校訂。

○本年度卒業生は大学院修士課程二名、学部学生十二名である。氏名及び論文は左の通りである。

### 大学院修士課程

木原淳幸「幕藩体制解体期の藩政史研究」

松下志朗「名頭地主経営の一形態——日州小林郷細野村志戸本

家の場合——」

### 学部卒業生

荒巻秀海「近世後半期における遠賀川水運」

安藤 保「鹿児島藩の土地制度——浮免についての一考察——」

石井昭紀「筑前における自由民権運動——筑前共愛会の構造——」

上野純也「幕藩体制の成立過程——立花氏の柳河立藩以前を中心——」

後藤良和「府内藩の青蘆について」

塩満郁夫「大隅国正八幡宮について」

高宮 修「明治前期の地方制度について——特に長崎県を中心として——」

塚原幸雄「幕末における佐賀藩の長崎警備」

永利育代「古代に於ける女帝出現の意義」

日永田義紀「大内氏の北九州支配について」

湯舟武男「明治初期に於ける藩政改革——佐賀藩について——」

○以上十四名の卒業および修了を祝して予餞会が二月八日、三畏閣において催されたが、学外からも卒業生多数迎えて盛会であつた。

## 西洋史学科の動向

○十月西洋史学科は教養部からの進学生十五名を迎え、学部学生

四七名、大学院六名を擁することになった。

◎後期より卒論指導の時間を設けることになり、清水、曾根崎、

早川、清原、吉田、須藤、梶の七名が構想発表を行い、二月一

日には小林教授が Jonathan Steinberg, "Kaiser's Navy and

German Society" Past and Present, July 1964 を取上げて論

文紹介の模範を示された。

◎大学院学生による研究発表は次のごとし。

奥田明子「武勲詩の cycles について」

古川栄輔「ドイツ工業全国連盟の活動とその役割について」

古川栄輔「ウイルヘルム・グレイナー」

志垣嘉夫「アンシアン・レジームにおけるフイエフとサンシウ

の法的分析」

木原悠子「政党再編成期における北部労働者階級の動向」

篠塚敏生「革命的オプロイテ」

◎本年度の学部卒業生および卒業論文は以下のごとくであった。

曾根崎崇臣「一八九〇年代の民主党におけるウイリアム・J・

ブライアン登場の歴史的意義」

宗守賢尚「再建期における関税問題―共和党急進派の関税政

策―

須藤修弘「アンテ・ペラム南部における民主主義運動の展開と

その性格」

清水勇雄「W・E・グラッドストーンの自由主義的植民地政

策―

の基本的性格」

吉田克己「J・P・アルトゲルドのイリノイ州政改革と全国政

治」

上田蕃穂「エマーソンのトランセンデンタリズムとその歴史的

背景」

岸ちづ子「シントー派修道院付属教会堂の成立をめぐる」

清水正俊「一九二〇年代のロシア共産党内の労働組合をめぐる

論争について」

の役割」

宮本浩「ブルマン労働争議」

◎修士論文は次の通りである。

奥田明子「ローランの歌研究序説」

古川栄輔「ウイルヘルム・グレイナーの思想と政策」

尚岡名とも博士課程に進学される。

◎生熊来吉氏は今年三月で所定の単位取得修了により大学院博士

課程を退学されることになった。

◎以上十四名の卒業および修了、退学を祝つて三月一日午後六時

より三畏閣において送別会を催した。

### 東洋史学科の動向

◇人事

◎三十九年度卒業生

片山正毅「五代藩領下の幕職官」

古川勝久「河東道内軍鎮の発達と河東節度使」  
青木佑子「北宋の体量和買辦草に就いて」  
四島恭子「唐代の倉庫業と店」  
清水志賀子「五四運動の中國革命史上に於ける位置とその遺産」

森道子「宋代の檢校庫に就いて」

○三十九年度大学院修士課程修了者

平川周造「元代の塩法」

### ◇出版

○東洋史学第二十七輯（三十九年十二月刊）

唐代大城邑の戶數規模に就いて——特に首都長安を中心とする——  
日野開三郎

唐代辺防機關としての守捉・城・鎮等の成立過程について  
菊池英夫

宋代幕職官の成立について  
片山正毅

地稅なる語の用法より見た大曆の夏稅・秋稅と兩稅との關係  
日野開三郎

### ◇研究発表會

蒙古朝財政の中央集權

平川周造

度支巡院と塩鉄巡院

片山正毅

五代における軍巡院の成立

室永芳三

北宋時代の京師東南間便錢と東南末塩鈔との關係について  
幸徹

## 考古学

○七月三〇～八月二日 鹿兒島県大隅半島古墳分布調査  
小田 富士雄

○八月四～九日 熊本県植木町円台寺址総合調査  
小田 宮小路賀宏参加

○八月九～十一日 熊本県山鹿市長岩横穴群調査  
小田参加

○八月一七～三三 福岡県京都郡勝山町箕田丸山古墳・行橋市下黒田庄屋塚古墳調査（三十九年度総合調査）  
岡崎敬・小田・石松好雄・黒野肇その他

○八月二七～三一日 浮羽郡浮羽町重定及び楠名古墳測量  
小田・石松・鶴久嗣郎

○八月一七～九月一四日 佐賀市帯限山神籠石調査  
研究室全員

○八月五～七日 浮羽郡吉井町日ノ岡古墳・久留米市京町日輪寺古墳測量  
小田・石松・宮小路・前川威洋

○十一月二〇～二二日 熊本県荒尾市東光寺中世石塔群調査  
小田参加

○十二月一～十日 大分県速見郡山香町向野水月寺址調査  
小田・黒野参加

○十二月六～十日 宮崎県都城市年見川弥生住居址調査  
鏡山猛・宮小路・黒野その他

○十二月十一～十四日 長崎県大村市周辺遺跡の調査  
研究室全員

○十二月二〇・三十一日 宮崎・熊本方面古墳分布調査 小田

○十二月二七～二八日 小倉高校所蔵考古資料調査

小田・黒野・安倍芳一

○二月十三～十四日 嘉穂郡桂川町王塚古墳發掘部調査

渡辺正氣・小田・石松

○三月十～十二日 大分県速見郡山香町水月寺遺物整理 小田

○三月一五～三〇日 福岡市警弥郷弥永原弥生遺跡調査

研究室全員

○三月二二～四月五日 飯塚市立岩弥生墳墓調査

岡崎・永井昌文・前川・下条信行その他

△本年度学部進学生に橋口達也君一名を迎え、十一月六日歓迎会を行つた。

△本年度卒業生は久保山教善君(大学院修士)一名である。なお同君はひきつづき博士課程に進学した。

卒業論文

久保山教善「琉球八重山群島の歴史的位置について」(修士)

—与邦国島の考古学的調査を主として—

発表題目

▽公開講演△

平氏と西国

福岡学芸大学助教授 飯田久雄氏

社会史の本領

広島大学教授 高山一十氏

▽部会発表△

国史部会

1 淨御原令の調税制

2 「欽明十三年仏教渡来説と末法思想」補遺

3 平安遺文「金石文」の内容について 八女高 松崎英一

4 田原紹忍の軍事力—その基礎構造について— 九州大 木村忠夫

5 毛利藩における倭物の生産と集荷 広島大 小川国治

6 近世西本願寺教権確立の一過程 宇部高専 児玉 識

7 薩藩門百姓の農業経営 九州大 松下志朗

8 長崎貿易における唐人船宿 九州大 中村 質

9 幕末期芸州藩における商品経済の特質 広島大 畑中誠治

10 朝鮮半島と日本書紀 愛媛大 重見辰馬

東洋史部会

1 中国古代農業論における自然観 広島大 寺地 遵

2 朝廷差補の幕職官と随府の幕職官 九州大 片山正毅

3 沿辺五路に於ける保甲編排について 九州大 羽生健一

4 南宋財政における「截留」の意義

5 茫氏義荘「租冊」の紹介

6 韓非子忠孝編

7 ビルマの名に関する問題点

西洋史部会

1 フランスにおける武勲詩の「シークル」(Cycle)について

2 ルネサンスと宗教改革

3 イギリス革命とジェントリ

4 ベルリン会議前後のフランス外交

5 アメリカ保守主義の価値体系

6 プログレシヴィズム(革新主義)批判

—特に資本家の評価について—

7 「ドイツ工業全国連盟」の活動とその役割について

(一九二八—一九三二)

地方史部会

1 大内氏家臣団の文化交渉 —連歌活動を中心に—

2 大内時代の社寺建築

3 長州藩における嘉永二年の教育改革について

4 防長神道教化史の一構想

5 瀬戸内海地域における式内社研究の二、三の問題

6 島津義久の使僧について—『上井覺兼日記』の新資料

7 近世の地方知行制 —長州藩の場合—

8 地理学部会

1 山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

2 交通量よりみた徳山の人口吸引圏の変化

3 山口県美祿地方における弥生式集落の立地

4 山口県の小河谷平地における条里型の土地割の

5 西南日本のカルスト地域におけるラビエの形態

6 山口市大内乗福寺の塔址について

7 山口県の古式土師器

8 山口県大島久保阿内遺跡について

9 宝島、大池遺跡の調査概報

10 小児墓制に関する一考察

11 山口県大内乗福寺の塔址について

12 山口県の古式土師器

13 山口県大島久保阿内遺跡について

14 宝島、大池遺跡の調査概報

15 小児墓制に関する一考察

16 山口市大内乗福寺の塔址について

17 山口県の古式土師器

18 山口県大島久保阿内遺跡について

19 宝島、大池遺跡の調査概報

20 小児墓制に関する一考察

21 山口市大内乗福寺の塔址について

22 山口県の古式土師器

23 山口県大島久保阿内遺跡について

24 宝島、大池遺跡の調査概報

25 小児墓制に関する一考察

河村乾二郎

野田敏夫

石川卓美

林 祥彦

浅原純一

河本芳久

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇

三浦 肇



1 熊本県水の山の配石、墓を中心として

山鹿高 隈 昭志

6 南筑八女地方に於ける押型文と弥生期との関連

福島高 岩崎 光

7 本州西端部の海岸段丘と無土器文化

山口大 小野忠潔

8 山口県月崎遺跡下層出土の縄文式土器について

山口大 河野通弘

歴史教育部会

1 中学校歴史教育における問題点について

岐阜中 金子博昭

2 歴史事象と時代の流れについての認識を深める指導

厚南中 森本 浩

3 歴史学習における興味、関心の深究

厚狭中 野村久麿

4 高校歴史（日本史）教育の改善

門司高 近田吉夫

論題「指導における困難性とその打開策」地理教育部会

1 明治以後の小学校教科書にみる地理教育の発表

— 中国地方の取り扱いを通して —  
湯野小 秋本元久

2 わが国農業の推移と社会科教育

玖珂教育事務所 松田保馬

3 サンプルングメソッドによる工業化学習

山口大付中 酒井忠生

4 高等学校における地理学習の自然環境取扱の深度と

問題点—地形の場合 徳佐高、福原 博

5 高等学校の地理学習において野外調査はどのように指導したらよいか

— 市立下関第一高校における実施を例にして —

市立下関一高 田中 堯

6 小学校社会科における地理的学習の系統

広島大 金子 廉